

今は幻の女子部員として

4年 夏 目 幹 子

どういふ因果で、こうしたものを書かされる

はめになつたのか、根源を訪ねれば、時すでに

4年も昔に遠ざかり、今更には名ばかりの部員

に原稿書かせる弱体なりクラブにはいつた事を不

運に感じる。とはいへ、この4年間、桜の花が

舞う季節には必ず、実に数少ない女子新入生を

見つけては、入部の勧誘にでぐすねひりていた

事を記しておきたい。聞くところによると何せ

らこのクラブにも花の女子部員がほつたとか

十分に気を配り大事下していただきたい。

ものぐさな自分にとつてきつかけを作るのは

思ひのほか大きな負担と活力を要求されるもの。

私がサイクリングなるものに、今だに愛着を覚
えるのは、おおまゝこのクラブがきつかりを容
易に作ってくれたためであり、自づからその地
味を味あめせてくれたにゆゑである。

なよやかな女性が、男ばかりの蒸さ暑い神室

に我が物顔で鞭ちつくのは、かなり心臓にもを

けやす訓練がいるけれど、一端戸外にいゝて、

同じ道を走り、同じ飯盒の飯を食べているとそ

のグルーブがむくつけき男子ばかりとはいへ、

不可思議なふん囲気からするりとぬれられる

のはおもしろい。サイフ旅行の効力ともいうべ

きか。一般に旅りせば、身心ともに日常生活の

うさから離れ、両方された気分になるもの。加

特に、サイフではその良さがぬかる。好きな時

好きな所へ行り、宿の心配もしなくて済むとい

うのが実にいい。と氣樂なのが一番いい。その分
テントだけのシュラフだけの食糧、炊事用具等、いっ
さいがっさい手前の力で持たねばならないのは
うっとろしいが、この氣樂さにはかえられたい。
むろん、私はが弱き女性であるので、全裝備30
kgの野宿、というわけにはいかず、しかも早く
毎に二、三kgを予約するのであるが、これが
もういけない。第一は目的地までたにがでんで
もいかなきでせうばいという五分が働くからで
ある。サイクリングの良さはより道の自由さにあり、
本身に楽しもうとする限り、重い荷物もなんの
そのの体力をつけねば。去年の北海道で出会っ
た人などは、驚くほど何でも持っていて家財道
具ごと自転車にくっつけた感じ。私などはこれ
まで、軽ければ軽いほどいい、と構着な長

持て必要最小限の荷物しかもつていかなかった
が、彼をみて、「若いあれば登りなしてを
実感した。一見無駄にみえるものも、こいて
若に感じないたくましさがあれば、何でももつ
ていった方が楽しい道中にはる。うらやましい
限り。サイクリングで心配なのは、天気がいい
か悪いか。向い風か逆い風か。舗装かリヤリカ
飯がうまいかまずいか。何日も雨が続くと、全
くおじめで帰りたくなる。そんな時は明白晴れ
ることを祈りつつ、旅のつらさと孤独に耐える。
が、仲間がいて、しかも好ら結構雨でも時をしのげ
る。海に飛び込んでのびる原野。絵に書いたら森
涼しい牛。親切なおばさん。たのもし仲間。
のんびり行こう。が私の辿りついたとも我々の
たともいえるサイクリングでありました。